

審査の結果の要旨

氏 名 李 斯奇

論文題目 Mechanism of Spontaneity in Utilization of Qilou Verandah Space: Case Study on Amoy

(自発性のメカニズムに注目した騎楼ベランダ空間の利活用に関する研究：廈門を例として)

騎楼は地上レベルの後退したスペースである騎楼ベランダ空間が特徴であり、所有に関係なく歩行者の通路と定義され、許可されない私的占有は禁止されているが、実態は種々のユーザーの種々な理由により利用される様々な自発的な行動の場となっている。公認の計画に対する自発的な行動は通りの特徴を表す地域のタウンスケープの一つとなっているが軋轢を起こす都市問題としてもとらえられる。

本論文は、伝統的街並保存のための知見を得るために、自発性と計画の対立を調整することに注目して、騎楼ベランダ空間の利活用について、自発性のメカニズムを明らかにするものであり、実測、行動観察、インタビュー、質問紙調査により、廈門市でケーススタディを行ったものである。

本論文は、デザイナー、計画者、政策立案者に対し、ユーザー視点からのボトムアップ的に理解と問題解決を目指すとともに、バナキュラーで人々が手をつけられる環境の適用可能な研究フレームワークを見出すことを目的としている。

本論文は6章で構成され、第1章ではイントロダクション、第2章では対象とした地域について述べられている。

第3章では、騎楼ベランダ空間がどのように利活用されているか自発性の表現を調査した。騎楼ベランダ空間を人々が利活用する方法を1日6回観察し、要素、セッティング、行動、相関の4つの分析を定量的に行った。

要素は、家具（商業的）、物資、作業、展示、家具（私的）、家庭用、趣味、乗物、その他の9要素について配置と時間的变化を明らかにした。

47種のセッティングからは8の主要なセッティングを見出し、目的を、商業的使用、私的使用、混合的使用に分け、定量的に分析した。

21種の行動は、必要な行動、自由選択の行動、社会的行動に分類し、それらの比率を明らかにした。

要素と行動の分析では、家具（商業的）は必要な行動のきっかけとなり、趣味は自由選択の行動と社会的行動のきっかけとなることを明らかにした。セッティングと行動の分析では、商業的使用は必要な行動のきっかけとなり、混合的使用のセッティングは自由選択の行動と社会的行動のきっかけとなることを明らかにした。

第4章では人々が騎楼ベランダ空間を利活用する自発性の理由について明らかにした。2回の質問紙調査により、建築的問題、個人的理由、利活用の状況、空間的ネットワークの4つのトピックが定量的に論じられた。

建築的問題では、機能的空間不足（内部）、駐車スペース不足（外部）、所有権、店と住宅の分離の4つの問題が見出された。所有権と店と住宅の分離は間接的な理由で、他は直接的な理由である。店と住宅の分離は、統合型、コンパクト型、近隣型、分離型に分けられた。

個人的な観点では、個人的理由、ビジネス、空間不足、コミュニケーション、通風と採光、習慣、専有者、その他の7つの理由が分析された。

利活用の状況では騎楼ベランダ空間に対する意識と実際の利活用の状況が明らかにされた。

空間的関係の観点からは、囲い込み型、分離型、拡張型、拡張分離型の4種類の空間ネットワークが分析された。

第5章では利害関係者の騎楼ベランダ空間に対する自発性の管理について明らかにした。異なる立場の48名へのインタビューから、管理の背景、公式の管理、実行された管理の3つの分析が定性的に行われた。

管理の背景では、中国の行政システムと法規が紹介された。自己管理規制の3つの義務が説明され、管理の主な利害関係者と管理システムが分析された。

公認の管理システムでは、3つの義務の規制により、秩序の管理、便益の管理、衛生の管理の3つの観点から分析された。

公式管理と実行された管理の比較により、公式管理への抵抗、自分たちのルール作り、自発的な建設、施設の無効化、公式管理の不在、義務の無視、義務の移行を含む7つの現象が見出された。

現象の変換では、現象を言葉にされていないルール、軋轢、所有地に関する管理へ分類した。自発的秩序では、騎楼ベランダ空間に適用できる現在の公式管理が十分でないことを示し、よりフレキシブルな管理システムを提案した。

第6章では結論として、自発性のメカニズムを、自発性の表現、自発性の理由、自発性の管理の知見について、それぞれについて論理的に関係させながら分析構成した。自発性の本質の一端を解明し、対象の通りについて、いくつかの一般的な提案と特定の提案を行った。最後にこの研究の意義と今後の展開が検討された。

以上のように本論文は、伝統的空間で行われる自発的行動の活性の実態と意義を探り、生き生きとした街づくりのための知見を求められるものであり、今後の建築計画学の発展に大いなる寄与となりうるものである。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。